

【注意事項】本資料は、『前夜祭』参加者に向けて作成されたものです。本資料の内容について、私的利用の範囲内でのみ印刷を許可し、無断での複製、配布、販売などは禁止いたします。

■森 ※口減らしのため森に置き去りにされたスタンリーを迎えに行くオリバーのシーン

寒々とした森。雪は積もっていないが霜がちらほらと。

地面に落ちている枝や葉は乾燥し、踏めば乾いた音を発して碎け散る。

大きな石の上に座っているスタンリーを見つけるオリバー。

スタンリー 「(音に反応し) 誰…… (足音から) 兄さん？」

オリバー 「(笑い) 足音でわかったのか」

スタンリー 「こういう時に来るのは兄さんしかいない」

オリバー 「……そっか。帰るぞ」

スタンリー 「どこに」

オリバー 「家だよ」

スタンリー 「どうして」

オリバー 「ここじゃ風邪引くだろ」

スタンリー 「……………」

オリバー 「スタン？」

スタンリー 「僕は……いない子だって、言われて……」

オリバー 「あのなあ。いないわけないだろ？」

スタンリー 「でも……」

オリバー 「じゃあ俺もいらぬ子だ。二人で村を出よう」

スタンリー 「えっ」

オリバー 「さーでどこに行こう。(笑い) はは、冒険みたいでわくわくするな？」

スタンリー 「駄目だよ……村には兄さんが必要だ。僕と違って目が見えるし、大事な働き手でしょ」

オリバー 「弟一人守ってやれないやつが、村のみんなを守れるかよ」

スタンリー 「そんなこと……」

オリバー 「(なあ) スタン。(お前は) 何も心配しなくていい。

大人の事情に、お前が……俺たちが従う必要は(もう) ないんだ」

スタンリー 「村を出る、から？」

オリバー 「ああ。スタンはどこに行きたい？ どこでもいいぞ、連れてってやつ」

スタンリー 「僕は……家の外も、あまり知らなくて……でも、暖かい場所がいいな。ここは寒いから」

オリバー 「ん。そうだな……じゃあ、海の方こうに行くか」

スタンリー 「海？」

オリバー 「おう。湖よりも大きくて——あ、湖はだな(説明しようとする)」

スタンリー 「いい。どうせわからないし……その、海の方こうに何かあるの？」

オリバー 「さあ。俺にもわからない」

スタンリー 「わからないところに行くの？」

オリバー 「ああ。去年だか、叔父さんがアメリカって国へ渡ったんだ」

スタンリー 「アメリカ……？」

オリバー 「詳しくは知らないけど、移民が作った新天地で、自由に生きられる場所だって聞いた。夢みたいなお話だよな？」

スタンリー 「自由に生きられる……」

オリバー 「おう。そこならきつと、誰も俺たちをいらないなんて言わないさ」

スタンリー 「本当かな……。本当にそんな場所があるの……」

オリバー 「わからない。だから行って確かめるんだ。ここにいるよりは、
ずっといいだろ？ な？」

スタンリー 「うん……。ねえ、兄さん」

オリバー 「ん？」

スタンリー 「迎えに来てくれて、ありがとう。僕、誰も来ないと思ったた」

オリバー 「（笑い）馬鹿だな。何があっても、お前を放っておくもんか」

スタンリー 「……兄さんのことを信じてない、わけじゃないけど……。でも……」

オリバー 「（そつと頭を撫でながら）気にすんなって。

しんみりした空気は苦手だ。

ごめんな、心細い思いをさせて。もう大丈夫だ。

お前は俺が守るから、安心しろ。

行こう、スタン。俺たちの場所を探しに」

スタンリー 「……うん。アメリカは、海は……。どんなところなんだろう。

……楽しみだな」

//ここまで